

「奈良公園植栽計画」のあらまし

これからの百年、二百年先へ、
より魅力ある奈良公園を
守り伝えていくために。



昭和初期の猿沢池。明治時代に植えたマツやシダレヤナギが適度に生長し、興福寺五重塔が3層まで見えている。

近代化が進められた明治初期に公園制度が発足して、

奈良公園は明治13年(1880年)に開園しました。

古くから守り伝えられてきた春日山原始林など周辺の自然や多くの歴史的建造物との調和に配慮して、

マツ、スギ、サクラ、カエデの4種の樹木を中心に植栽するなど、

この地の歴史、文化、自然と調和した公園づくりが進められてきました。

また、戦後、自然災害やマツクイムシによる大きな被害に見舞われたときも

大規模な植栽整備が行われました。

しかし近年になって、マツクイムシの被害が収まらないばかりか、

大きく生長した広葉樹が美しい眺望景観をそこねたり、

外来種ナンキンハゼの自然生態系への侵入も心配されています。

そこで、奈良公園では、百年、二百年先へ魅力ある奈良公園を守り伝えていくために、

園内の植栽を見直しています。

「クロマツ疎林ゾーン」では、 クロマツを基調として歴史文化と調和した 格調高い植栽・景観を保全・継承していきます。

「クロマツ疎林ゾーン」は、
興福寺から東大寺にかけての参道とその周囲で、クロマツが多く見られるエリアです。
平成25年度から「クロマツ疎林ゾーン」を対象に計画検討を進めています。

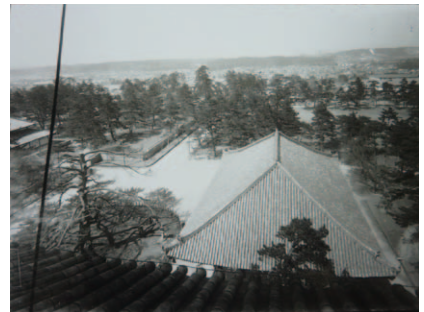
「クロマツ疎林ゾーン」は、古くからマツが多く見られ、
それが景観の特徴となっています。



南大門参道のマツ並木(大正末期)



国立博物館のクロマツ純林(大正初期)



興福寺五重塔からの眺望(昭和11年)

現状① マツクイムシの蔓延により、毎年多くのマツが枯れています。

➡ 薬剤樹幹注入を継続するほか、マツクイムシに強い品種を植栽します。

現状② 常緑広葉樹などの生長により、重要な眺望景観が阻害されています。

➡ 過密な常緑広葉樹を伐採して、マツやサクラなどに植え替えていきます。

現状③ 外来種ナンキンハゼが、野鳥によって種子が運ばれ自然地に侵入しています。

➡ 「春日山原始林」などの自然地を守るため、原則ナンキンハゼを伐採します。

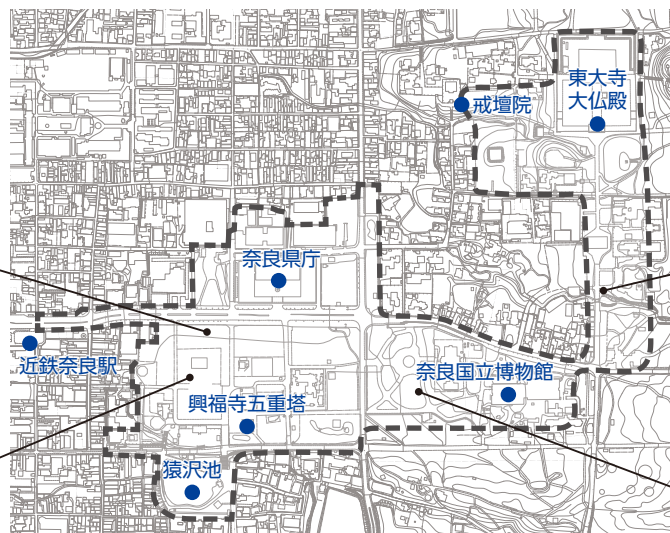
計画目標(一部抜粋)

登大路園地

登大路のマツ並木との一体性に配慮。登大路園地はマツを背景にサクラ類を植栽します。

興福寺周辺

天平時代の伽藍の再現に配慮して、植栽を限定。マツやサクラを点在させます。



東大寺大仏殿周辺

南大門あたりは、他の樹木を混植せず、参道のマツ並木の美しさを強調します。

奈良国立博物館周辺

原則、クロマツのみの植栽とし、本館を引き立てるよう樹木を配します。

4月から、猿沢池周辺の整備が始まります。

猿沢池池畔から興福寺五重塔や南円堂を望む、 美しい景観をよみがえらせます。

興福寺の放生池としての歴史を持つ猿沢池。南都八景の一つにも数えられ、とりわけ猿沢池から興福寺五重塔を望む景観は、古くから人々に愛されてきました。

ところが、常緑広葉樹の生長などによって、その眺望がそこなわれるようになり、早急な改善が求められていたことから、平成26年4月より猿沢池周辺の整備が進められます。

興福寺五重塔と調和した美しく 魅力的な景観を再びよみがえらせます。

猿沢池から興福寺五重塔への眺望は、開園当時に植栽した若木が生長した大正から昭和初期には、歴史的建造物と植栽が調和し、大変美しい景観を誇っていました。今回の植栽計画では、当時の姿を参考にしながら、より魅力的な景観づくりをめざして、眺望を妨げている常緑・落葉広葉樹を一部伐採するとともに、マツやサクラに植え替えます。

長期的、段階的に植栽の整備を進めていきます。

急激に景観が変わってしまうことを避けるため、長期的かつ段階的に、樹種の変更や伐採などを進めていきます。

伐採は、単年度の伐採量を全伐採量の3分の1程度とし、景観の変化を観察しながら徐々に整備を進めます。

また、毎年、整備の結果については学識者や市民の評価を確認し、次の整備を進めていきます。

現在の猿沢池から五重塔への眺望



目標とする景観(将来的なイメージ)

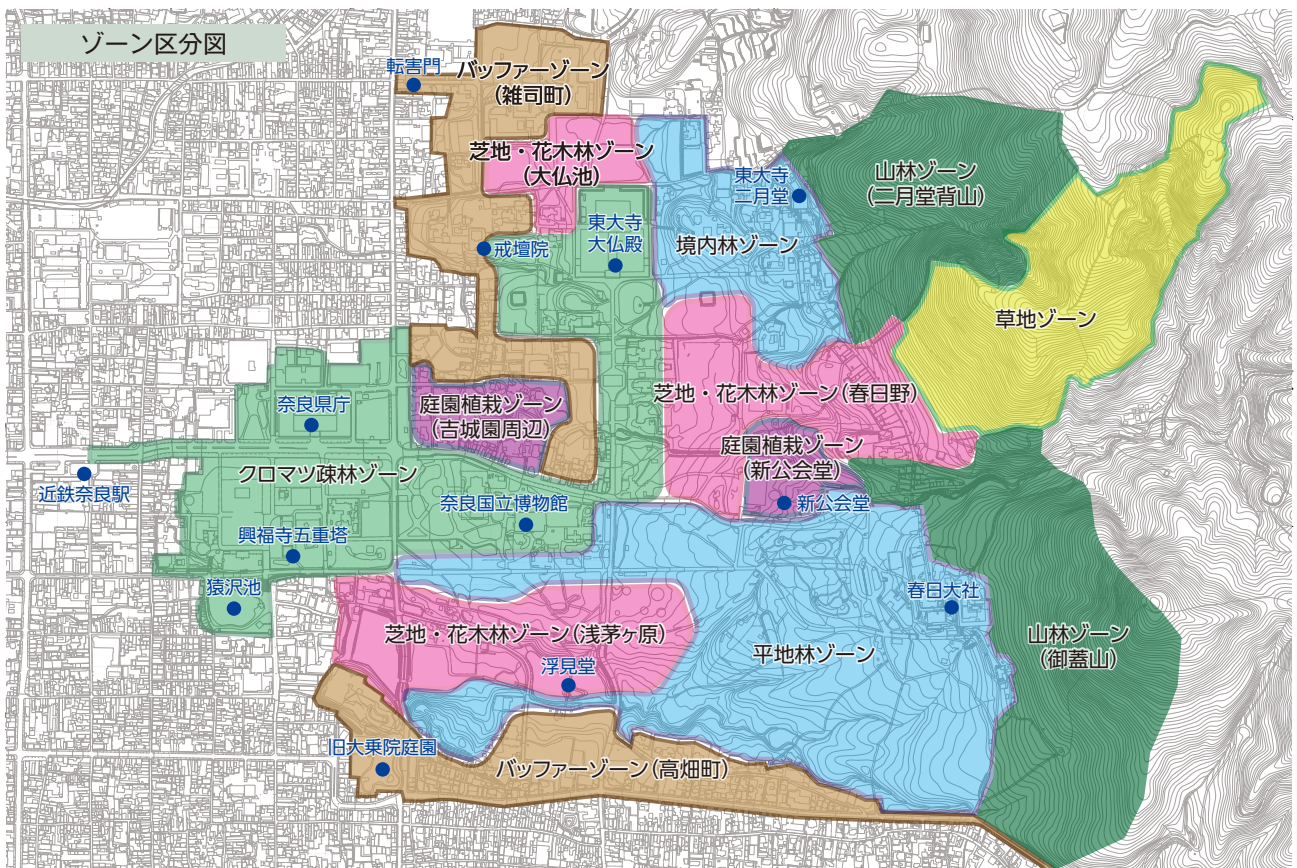


今後は順次、ゾーンごとに計画策定を行い、 植栽の整備・管理を進めていきます。

万葉の時代から中世、近世といくつもの時代にわたって守り伝えられてきた奈良公園の歴史、文化、自然の価値。それに加えて、明治以降に整備が進められた都市公園としての価値が融合して、奈良公園は、他に類を見ない「奈良を代表する景観」を作り上げてきました。

園内の植栽は、そうした奈良公園の景観を形成する重要な要素の一つであり、明治時代の開園以来、その植栽の適切な整備・管理によって美しい景観ができあがってきました。平成24年に策定された「奈良公園基本戦略」のもと実施される「奈良公園植栽計画」は、現時点の問題を改善するだけでなく、さらに奈良公園の価値、魅力を高め、次代にも誇れる植栽景観づくりをめざして、長期的に取り組むものです。

「奈良公園植栽計画」は、長期的かつ段階的な取り組みになることから、園内の地勢や植栽の特徴によって区分したゾーンごとに計画策定を進め、これに基づいて植栽の整備・管理を進めていきます。



「奈良公園植栽計画」についてのお問合せ・ご意見は、下記にお寄せください。

奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局奈良公園室 奈良公園管理係

〒630-8501 奈良市登大路町30番地(奈良県分庁舎6階)

TEL:0742-22-1101(内線4301) FAX:0742-22-7832 MAIL:nara-park@office.pref.nara.lg.jp